

宇管工

賀詞交歓会を開催

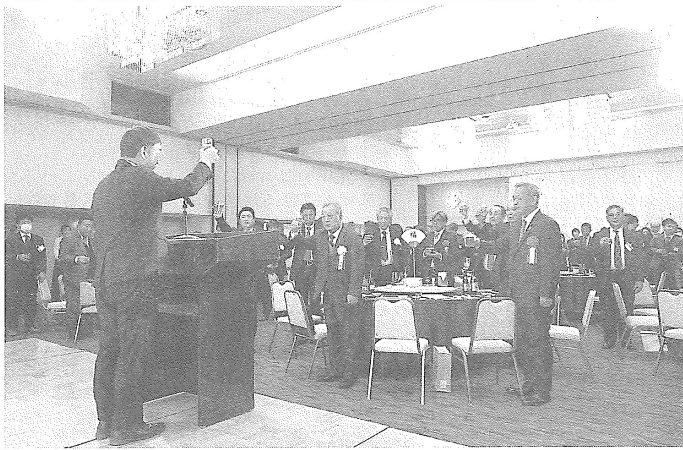
災害復旧活動で社会貢献

宇都宮市管工事業協同組合（宇管工、中村勝理理事長）は26日、宇都宮市内のホテルで2024年賀詞交歓会を開催した。組合員、協力業者、来賓ら約100人が出席し、新年の交流を深めた。

開会后、参加者一同で能登半島地震の犠牲者に黙を捧げた。中村理事長は被災者にお見舞いの言葉を述べた後、「当組合は昨年に創立70周年を迎え、11月に70周年式典を開催したほか、10月には

4年ぶりに総合防災訓練を実施した。訓練には、次代を担う青年部会員や県央産業技術専門校の生徒が積極的に参加し、若い力を強く感じた。昨年は充実感・達成感をもって一年を過ごしたが、組合員の努力と協力のたまものである」と、昨年の活動を振り返った。

道事業が一体となる新体制について、大いに期待している。能登半島地震において当組合では、1月7日に給水活動を七尾市で実施し、18日からは6日間、志賀町で配水管の応急復旧活動を行った。今回は2月18日から6日間、災害対応活動を予定している。今後も要請があれば、出動できるよう準備を整えたい。今後も組合事業の発展に尽くし、災害時の応援活動



大竹上下水道事業管理者による乾杯



船田衆院議員



中村理事長



佐藤市長



高橋参院議員



馬上市議会議長

や社会貢献活動にも積極的に取り組んでいく」とあいさつし、組合員や出席者の活躍と健勝を祈念した。

来賓からは、船田元衆議院議員、高橋克法参議院議員、佐藤栄一市長、馬上剛宇都宮市議会議員が、宇管工は地域の守り手で災害復旧などに貢献

では、出席者が能登半島地震へ義援金を寄付し、日本赤十字社を通じて浄財が届けられることとなった。

乾杯の発声は、大竹信久宇都宮市上下水道事業管理者が担当した。乾杯後、出席者たちは大いに歓談し、年頭の親睦を行った。今回の賀詞交歓会では、出席者が能登半島地震へ義援金を寄付し、日本赤十字社を通じて浄財が届けられることとなった。



100人が年頭の交流を図った